

「E&A」の計画の要点

(1) 建築計画

① 研修部門の各室について、その位置とした理由及び動線計画において工夫したこと。

A) 研修部門は地域住民との交流の場となることから、利用しやすい1階とし、創作活動の場であるアトリエを安定した自然採光が採れる北側配置とした。アトリエを含め各セミナー室を1つのゾーンとして北側へまとめ、中央のエントランスホールから寄りつきやすい配置とした。

② エントランスホールの計画について工夫したこと。

A) 各部門への動線の起点となるエントランスホールは、施設の中央にまとめ利用しやすいものにした。また、吹抜やトップライトと組み合わせることによって自然光豊かな空間とした。

③ 勾配屋根の形状を活かした室内空間とするために工夫したこと。

A) 勾配屋根の棟部分は一般階高よりも高くなり、天井を高く取ることができ、トップライトと吹抜とを組み合わせることによって、室内で有りながら圧迫感のない開放感のある空間とした。

(2) 構造計画

① 建築物に採用した構造種別、架構形式及びスパン割りとこれらを採用した理由。

A) 主体構造は、経済性、遮音性、耐火性から鉄筋コンクリート造ラーメン構造とした。無柱空間となるアトリエの屋根を支える梁は、長大スパンとなるため、鉄骨造とした。スパン割は、鉄筋コンクリート造では無理のない7mと6mとした。

② 勾配屋根の構造について工夫したこと。

A) 勾配屋根のため棟部分が一般よりも相当高くなるので、2階の階高をできるだけ低くすると共に、棟部分は大きな壁面となるために、棟梁付きの壁面には井内に中間梁を設け変形に対応した。

(3) 設備計画

① アトリエにおいて、採用した空調方式、空調機の設置位置及び良好な室内環境とするための吹出口・吸込口の計画について工夫したこと。

A) 天井高が高く、良質な空気調整が要求されるため、アトリエ用空調機を隣接する機械室に設置し、単一ダクトにより天井から吹出す方式とした。リターンは1階の機械室との壁面に設け、室内でよどみなく循環できるようにした。また、フレッシュエアは機械室外壁より取り入れる。

② 建築物の省エネルギーにおいて自然採光の促進、日射遮蔽及び空調エネルギーの削減について工夫したこと。

A) 建物中央部にトップライトを設け、なお下部を吹抜とすることで、外周部だけでなく中央部にまで自然採光が行き渡るようにした。バルコニーや遮光壁を外壁から突き出す事で朝日や西日を遮蔽し、負荷の低減とした。